

22年度 決算説明会資料

2023年2月
株式会社タダノ

22年度実績と23年度予想

22年度実績と23年度予想

➤ 22年度実績：営業利益・経常利益ともに増加

- 欧州・日本ともに生産制約が長期化する中、売上確保
- 費用増加や原材料価格高騰の影響あるも、物量増加や販売価格の見直し、為替により営業利益は38億円増加

➤ 23年度予想：増収増益

- 生産制約は緩和しつつあり、総じて堅調な需要を追い風に売上増加
- インフレ・円安によるコストアップ（原材料価格・物流費・人件費）→ 売価転嫁で採算悪化をミニマイズ
- 将来に向けた前向き投資・費用は継続

中計(21-23)最終目標に対し、円安による利益押し上げはあるものの、想定外のコストアップや生産制約等の影響があり苦戦

	21年度	22年度 (変則9ヶ月)	22年度 (12ヶ月調整)	23年度 公表値	23年度 中計目標
売上高	2,056億円	1,929億円	2,267億円	2,700億円	2,750億円
営業利益	52億円	71億円	90億円	120億円	275億円
営業利益率	2.6%	3.7%	4.0%	4.4%	10.0%
海外売上高 比率	54.8%	67.2%	58.9%	65.5%	66.9%
ROIC	0.9%	0.4%	0.8%	2.6%	8.0%
為替RATE	USD:109.80円 EUR:129.89円	USD:131.43円 EUR:138.04円	USD:131.43円 EUR:138.04円	USD:125円 EUR:140円	USD:105円 EUR:125円

今後の見通し

建設用クレーン需要動向

- 22年度実績でコロナ前水準を上回るまで回復
- 23年度は地域毎に懸念材料はあるものの、総じて堅調とみる
- 北米に加え中東やオセアニア 他、エネルギー・インフラ関連需要が高水準で継続する見通し

(単位：台)

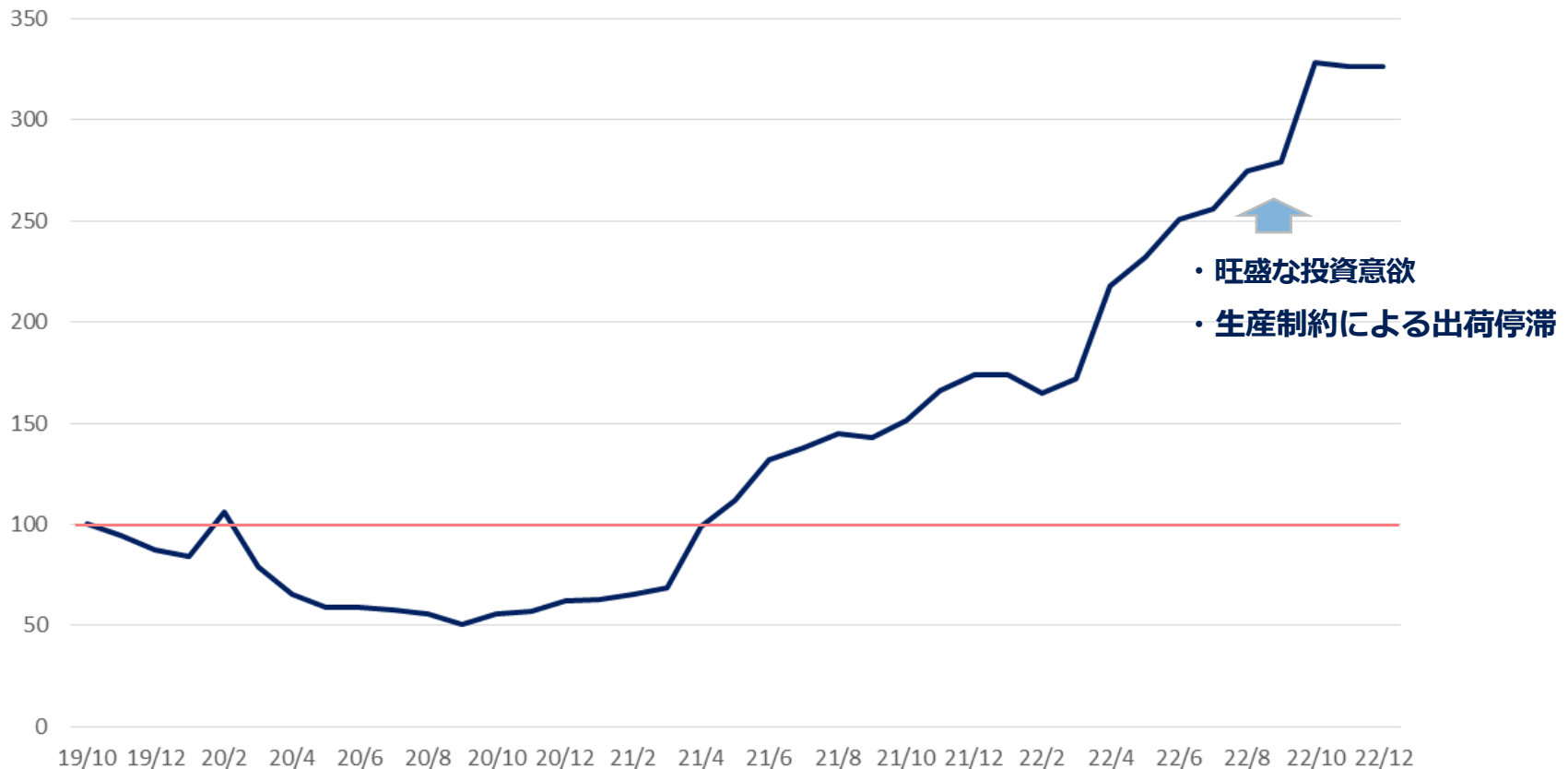
地域	CY2019	CY2020	CY2021	CY2022	vs 2021	vs 2019
欧州	1,650	1,390	1,360	1,470	108%	89%
北米	1,650	980	1,090	1,150	106%	70%
中南米	270	200	370	590	159%	219%
アジア	1,290	1,020	1,360	2,020	149%	157%
中東	650	480	520	910	175%	140%
その他	1,240	1,170	2,080	3,760	181%	303%
海外計	6,750	5,240	6,780	9,900	146%	147%
日本	1,870	1,520	1,420	1,380	97%	74%
合計	8,620	6,760	8,200	11,280	138%	131%

※中国国産の中国市場向け、ロシア国産は上記に含まず。

受注残高推移

- 受注残高は需要回復に加え、生産制約により高水準を維持
- 生産制約による遅れを挽回し、着実に販売へ繋げていく

2019年10月のグループ受注残高（金額）を100とした指数の推移



ものづくりの状況

22年度の遅れを挽回し、日独ともに増産を計画

➤ 調達環境の悪化

22年度：

- ・ コロナ禍（長期化+中国ロックダウン）、ウクライナ問題、トラックシャシ供給制約

もの不足：電子部品、トラック等

人手不足：外注製品の納期遅滞、物流目詰まり

23年度：

- ・ 日独とも解消へ向かいつつあるが、不透明
- ・ マルチソーシング（内製化・複数購買）取り組み中

➤ コストアップ

- ・ 原材料価格・物流費・人件費等の高騰
- ・ 一部緩和の動きが出てきているが、依然として高い水準が続く

将来に向けた取組み

「ONE TADANO」の実現に向けて

これまでに実施した取組み:

- ✓ ブランド統一
- ✓ 決算期統一
- ✓ 組織体制の見直し（製品軸・地域軸の強化）
- ✓ タイ・インドでの生産撤退 → 欧州へリソース集中

真の「ONE TADANO」へ:

欧州事業再生にグループ一丸で取り組む中で育み、築き上げる

- ✓ 活発なグローバルコミュニケーション（多様性を認める）
- ✓ 最適な開発・生産体制（思想の統合 日独 最適解）

欧州事業再生の進捗

- **需要・受注状況は好調。一方で長期化する生産制約により、生産/販売台数減・生産効率悪化、原材料価格高騰などが利益下振れ要因に**
- **澤田 新CEOのもと、再生に向けた取組みを加速させると共に、日独融合によるTadano にしかできない開発・生産体制を確立していく（真の「ONE TADANO」へ）**
 - 日本の強み（品質の高さ、コスト・納期といった安定性）
 - ドイツの強み（最先端テクノロジー、環境への配慮）

具体的な取組み:

- ✓ 再生計画における人員適正化・資産圧縮 **完了**
- ✓ 業務プロセス統合、ブランド統一 **完了**
- ✓ 製品ラインナップ見直し **進行中**
- ✓ 日本との協業による最適生産体制 **進行中**
- ✓ 欧州リサーチセンター **進行中**

カーボンネットゼロ社会実現に向けて

➤ 「Tadano Green Solutions」の更なる展開

- **世界初となる電動ラフテレーンクレーン EVOLT 2023年内に製品化を計画（日本市場をターゲット）**

→22年4月の発表以来、問い合わせ多数。直接の顧客はもとより、工事を発注する設計・施工会社や、関連部品サプライヤからの反響あり

- **23年3月14～18日 米・ラスベガス建機展CONEXPO**

- ✓ これまでの「CO2低減」(Low Emissions)レベルではなく、「CO2排出ゼロ」(Zero Emissions)の目標に向かった新たな製品発表を予定。
- ✓ Tadanoグループの「Zero Emissions」達成への強い意志と共にTadano Green Solutionsのロゴにメッセージを追加。



OUR TRUE MISSION
ZERO EMISSIONS

TOPICS

TOPICS ~bauma2022~

昨年10月、ドイツ・ミュンヘンで世界三大建機展の一つであるBauma2022が開催されました。タダノ・デマールGmbHがグループ加入後初のBauma出展となった今回は、最新モデルのオールテレーンクレーンやラチスブーム式クローラクレーンの技術をベースとしたペデスタルクレーン、欧州向けのラフテレーンクレーン等を出展するとともに、「Tadano Green Solutions」としてハイブリッド型オールテレーンクレーンのデモ機も展示しました。連日たくさんのお客様が来場し、大変盛況で有意義な建機展となりました。



TOPICS ~ダイバーシティ、人的資本~

5年連続で「健康経営優良法人」に選定

当社は1981年に「心とからだの健康づくり運動」をスタートし、社内に設置した「体力増進センター」を社員と家族に開放するなど、健康文化の育成に取り組んでいます。2018年から経済産業省・日本健康会議が認定する「健康経営優良法人(大規模法人部門)」に毎年選定されています。また、日本国内のグループ会社7社も「健康経営優良法人2022(中小規模法人部門)」の認定を受けました。



2022

健康経営優良法人

Health and productivity

ダイバーシティ人財確保を目指す採用広報動画を作成

ダイバーシティ人材確保を目指して、「女性がより輝ける職場」と「タダノで働く社員たちの『夢』」という2つのテーマで社員にフォーカスした採用広報動画を制作しました。さまざまな価値の多様性を受け入れ、組織に活かすことが、社員の働きがいや生産性の向上、付加価値の創出につながると考え、今後も多様な社員が能力を発揮できる環境の構築に取り組んでいきます。



TOPICS ~ESG・SDGs関連取組み~

多度津工場で消費電力の30%をカバーする太陽光発電が完成

今年1月、多度津工場にDaigasエナジー株式会社とのPPA契約による太陽光発電設備を完成させました。パネル容量合計は606.8kW、年間自家消費量は54.3万kWhで、多度津工場の年間消費電力の32.2%を再生可能エネルギーでカバーできる計算となります。

国内事業所全体の1.5%にあたる年間288トンのCO2削減を見込んでおり、当社は今後も「2050年カーボンネットゼロ」の実現を目指して、さまざまな形で脱炭素社会の実現に貢献していきます。



「北澤 豪さんSDGs講演会」を開催

カマタマーレ讃岐とのコラボレーションイベントとして、サッカー日本代表、Jリーガーとして活躍された北澤 豪さんにお越しいただき、スポーツを通じた社会貢献活動などSDGsに関連したテーマで講演いただきました。北澤さんがサッカーを始めたきっかけや選手時代のエピソード、また北澤さんが携わられている発展途上国へのサッカー支援や、障がい者サッカーについて紹介いただきました。



世界に、そして未来に誇れる企業を目指して

**Pursuing Further Excellence
for the World and the Future.**